【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第４区分
【発行日】平成28年10月27日(2016.10.27)

【公開番号】特開2016-52235(P2016-52235A)
【公開日】平成28年4月11日(2016.4.11)
【年通号数】公開・登録公報2016-022
【出願番号】特願2014-178062(P2014-178062)
【国際特許分類】
Ｈ０２Ｋ　1/18　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０２Ｋ　1/18　Ｅ
Ｈ０２Ｋ　1/18　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成28年9月8日(2016.9.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
環状のヨーク部（２１）と、該ヨーク部（２１）から径方向に突出した複数のティース部（２２）とからなる磁気回路部材（２）と、
上記ヨーク部（２１）における上記ティース部（２２）の突出方向と反対側に配されていると共に、ステータ取付座（５）に固定される部位を構成する被取付部材（３）と、
上記磁気回路部材（２）と上記被取付部材（３）とを互いに固定する固定部材と、を有し、
上記磁気回路部材（２）と上記被取付部材（３）とは、互いに別部材からなると共に、上記固定部材によって互いに固定されており、
上記被取付部材（３）は複数個配設されており、
上記各被取付部材（３）は、上記ヨーク部（２１）の周方向の両側に突出した一対の鍔部（３２）を有し、
上記各被取付部材（３）は、一対の上記鍔部（３２）において、上記固定部材に保持されていることを特徴とするステータコア（１）。
【請求項２】
複数個の上記被取付部材（３）は、上記ヨーク部（２１）の周方向に沿って互いに離隔されて配置されていることを特徴とする請求項１に記載のステータコア（１）
【請求項３】
上記磁気回路部材（２）と上記被取付部材（３）とは、上記ティース部（２２）の周囲に巻回されるコイルと上記磁気回路部材（２）との間の絶縁を図るための樹脂製のボビン（４）と一体成形されることにより、互いに固定されていることを特徴とする請求項１又は２に記載のステータコア（１）。
【請求項４】
上記磁気回路部材（２）と上記被取付部材（３）とは、金属製の連結部材（６）によって互いに連結固定されており、該連結部材（６）は、上記磁気回路部材（２）と上記被取付部材（３）との間に介設される筒状体（６１）と、該筒状体（６１）からそれぞれ複数突出した第１係合爪部（６３１）及び第２係合爪部（６３２）とを有し、複数の上記第１係合爪部（６３１）が上記被取付部材（３）に係合され、複数の上記第２係合爪部（６３

２）が上記磁気回路部材（２）に係合されることにより、上記被取付部材（３）と上記磁気回路部材（２）とが互いに固定されていることを特徴とする請求項１又は２に記載のステータコア（１）。
【請求項５】
上記被取付部材（３）は、上記ヨーク部（２１）よりも軸方向の厚みが大きいことを特徴とする請求項１～４のいずれか一項に記載のステータコア（１）。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
本発明の一態様は、環状のヨーク部と、該ヨーク部から径方向に突出した複数のティース部とからなる磁気回路部材と、
上記ヨーク部における上記ティース部の突出方向と反対側に配されていると共に、ステータ取付座に固定される部位を構成する被取付部材と、
上記磁気回路部材と上記被取付部材とを互いに固定する固定部材と、を有し、
上記磁気回路部材と上記被取付部材とは、互いに別部材からなると共に、上記固定部材によって互いに固定されており、
上記被取付部材は複数個配設されており、
上記各被取付部材は、上記ヨーク部の周方向の両側に突出した一対の鍔部を有し、
上記各被取付部材は、一対の上記鍔部において、上記固定部材に保持されていることを特徴とするステータコアにある。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
【図１】実施例１における、ステータコアの斜視図。
【図２】実施例１における、ステータコアの平面図。
【図３】実施例１における、ステータコアの断面図。
【図４】実施例１における、磁気回路部材と被取付部材との平面図。
【図５】実施例１における、屈曲コア材の斜視図。
【図６】実施例１における、被取付部材の斜視図。
【図７】実施例１における、ステータ取付座に対するステータコアの固定部分の断面図。
【図８】参考例における、ステータコアの平面図。
【図９】参考例における、ステータコアの展開斜視図。
【図１０】実施例２における、ステータコアの平面図。
【図１１】実施例２における、ステータコアの斜視図。
【図１２】実施例２における、被取付部材の平面図。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
（参考例）
本例は、図８、図９に示すごとく、被取付部材３が環状に形成されているステータコア１の例である。

被取付部材３は、ヨーク部２１に係合する係合爪部３３を複数有する。係合爪部３３によって被取付部材３が磁気回路部材２に固定されている。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３５】
（実施例２）
本例は、図１０～図１２に示すごとく、磁気回路部材２と被取付部材３とが金属製の連結部材６によって互いに連結固定されているステータコア１の例である。
連結部材６は、図１０、図１１に示すごとく、磁気回路部材２と被取付部材３との間に介設される筒状体６１と、筒状体６１からそれぞれ複数突出した第１係合爪部６３１及び第２係合爪部６３２とを有する。複数の第１係合爪部６３１が被取付部材３に係合され、複数の第２係合爪部６３２が磁気回路部材２に係合されることにより、被取付部材３と磁気回路部材２とが互いに固定されている。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
図１０、図１１に示すごとく、各被取付部材３は、一対の鍔部３２が第１係合爪部６３１によって係合され、かしめられることにより、連結部材６に固定される。各鍔部３２には、軸方向に対向する一対の第１係合爪部６３１が係合している。また、第２係合爪部６３２は、磁気回路部材２のヨーク部２１に係合し、かしめられている。第２係合爪部６３２の磁気回路部材２への係合の状態は、参考例（図８、図９）における係合爪部３３による磁気回路部材２への係合の状態と略同様である。